

みふ うん有無十七号



本堂内のお荘厳 ～天女～

天女 (deva-kanya) は神の娘の意味を持つ。
仏教に「劫 (コウ)」という時の長さを表す言葉が
あるが、この言葉を説明する際にも天女は
登場する。

人と人とのグラデーション

人と人との繋がりを、持つて生きることとはとても大切である。
けれどもその繋がり方をよおしく見てみると、そこには濃淡があるように思う。
何がこの濃淡を作り出しているのか。濃い方が良くて、淡い方が良くないのか。
はたまたその逆なのか。
どちらにせよ、ここで大切なのは「濃」と「淡」を2つにはっきりと分けていること
ではないだろうか。そしてこれを区別しているのは「自分の都合」かもしれない。

阿彌陀仏は、鏡に譬えられることがある。私たちの心を映し出す鏡だと。
私たちにはその時々自分の思いがあって、その思いを周りと共有したりする。
でもそれがうまく共有できずに自分自身を辛い思いに追い込んでしまったりも
する。その結果、相手を傷付けてしまうような思いが沸き起こってくる
ことがある。

そんな自分の姿を映し出してくださるのが「Amitabha of the Mirror
(鏡の阿彌陀)」。この鏡は思いのほか自分のすぐ近くにあるように思う。
それは、自分とうまく共有できなから、相手こそが自分の今を映し出して
くれている存在であり、その存在こそが浄土真宗という阿彌陀ではない
だろうか。

私たちの思いの中には、どうしてもワガママな部分が存在する。
物事を二択化することで、そんな自分自身を支えているようにも思う。
人と何かを共有しながら、共存していくということは
「濃淡 (グラデーション)」で見るところの「中間色の良さ」に気が付いて
いくことなのかもしれない。

——濃淡 のうーたん——

色や味などの濃いことと、うすいこと。

「絵の具で濃淡をつける」

goo 鮮香より



中道 ちゅうどう

「こっちの方が良いからこっちにしよう！」
「でもなあ、やっぱりこっちかなあ。こっちにしよう！」
「うへん。。。やっぱりこっちか？」
「ガァ~~~~。。。どうしたらいいんじゅわ〜!!!」

私の性格こんなんです。。。。

それでは！切り換えて参りましょう！笑

副住職 優柔不斷
其出衆一見之父
娘超可愛過溺愛
優柔不斷溺愛面



仏教の考え方の一つに「中道（ちゅうどう）」というものがあります。
これはお釈迦様によって明らかにされた仏教思想の一つです。

- 相互に矛盾対立する二つの極端な立場のどれからも離れた自由な立場、
〈中〉の実践のこと。〈中〉は二つのものの中間ではなく、二つのものから離れ、
矛盾対立を超えることを意味し、〈道〉は実践・方法を指す。

（岩波仏教辞典 P.174）

といった意味があるようです。

難しい言葉で書かれているので「頭が「？」」かもしれませんが、簡単に言えば

- 中正なる道の意で、極端に偏せない道をいう。

（真宗辞典 P.536）

ということのようです。

この真宗辞典の説明は簡潔過ぎて誤解を招くかもしれませんが、真宗の
視点で見れば「極端に偏せない道」ということは〈凡夫〉と言われる私たちには
とても難しい道なのかもしれません。どうしてもどちらかに偏ってしまう自分自身を
自覚するところに真宗門徒としての道が存在するように感じます。

〈やる〉・〈やらない〉というところにある道ではなく、どちらもやってきた先に繋がって
きた道というのが極限の苦楽を知ったお釈迦様がたどり着いた「中道」であり
どうしてもどちらかに寄ってしまうそんな私たちをも常に慈悲の心で救い取ろうと
してくださるのが私たちの合掌に灯る阿彌陀仏という存在では
ないでしょうか。

Letter Referral

～お便り紹介～



門徒様より お便りをいただきましたので
掲載させていただきます。

この4月、母の17回忌法要に合わせて、昔、生後僅か
3ヶ月で亡くなった弟の勝男（法名：釋願容童子
命日：昭和12年 10月30日）の没後80年にして初めての
供養をして頂くことにいたしました。

東京で独立して間もない父が、突然乳飲み子を亡く
したことで源通寺とお付き合いが始まったと聞いて
います。私も終戦直後の昭和20年代の中高生の頃には
先代に早世された15世住職が学生服姿で毎月必ず
お経をあげに見えて下さり、お茶のみ話をされては
帰られるのをよくお見掛けしたのを思い出します。その
ような私も親鸞聖人の教えと共に歩み決意をし、
昨年の報恩講の際、帰敬式を受け、可ばらしい法名を
いただき仏弟子となりました。

H.M

Next Event

～今後の予定～

◆ 4月8日(金)
10時～17時

花まつり

阿弥弥様のお誕生を
お祝いします。誕生仏に
甘茶をかけ、実際に甘茶を
飲むことも！お子様と是非
一緒にお立ち寄りください

＜参加費無料＞

◆ 4月30日(土)
14時～16時

月明の会

14教を語らう
住職による仏話です。
古聖会館にて行います。

＜参加自由＞

◆ 5月22日(日)

永代経法要

永代に渡りお経が読まれ
子や孫も仏のみ教えを聞
べの拠り所となる場所を
再確認しましょう。

本堂にて行います。

詳細はハガキにて郵送しま

※ みなさまからのお便り随時 募集しております！

X-IL、FAXでもOKです。お待ちしております～!!

X-IL : contact@gentsuji.or.jp

FAX : 03-3371-8817

発行日：平成28年1月1日

制作：副住職 小笠原翔

(法名 釋祐翔)

准坊主 小笠原沙織

題字：15代住職 小笠原祐純

(法名 釋祐純)

facebook

真宗大谷派 源通寺 X Q

いいね! よろしくお願ひします!!

真宗大谷派

金堂山 源通寺

東京都中野区上高田1-2-7

TEL・03-3371-8817

FAX・03-3371-8815

WEB①・gentsuji.or.jp (寺院用)

WEB②・gentsuji.jp (行幸用)

MAIL・contact@gentsuji.or.jp

■ 当寺に関する事、又気になること等ございましたら、お気軽にご相談ください。